

Economic Indicators

発表日:2019年4月17日(水)

貿易統計(2019年3月)

～海外経済の減速を受けて、輸出は弱い動きが続く～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 小池 理人 (TEL:03-5221-4573)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		原数値	季調値	輸出金額		前年比	前年比	前年比	輸入数量				
				前年比	前年比				前年比	前年比	前年比	前年比	
18年	1月	▲ 9,638	3,282	12.3	8.0	10.8	4.7	12.6	13.8	3.3	7.2	3.9	1.8
	2月	▲ 139	▲ 3,416	1.8	16.9	▲ 0.8	6.2	1.5	▲ 6.1	13.8	6.0	1.5	26.9
	3月	7,842	902	2.1	▲ 0.4	3.6	6.7	▲ 5.8	5.9	▲ 4.3	3.0	4.6	▲ 7.3
	4月	6,210	4,959	7.8	6.0	7.2	8.1	6.3	3.6	2.1	2.1	▲ 3.6	2.6
	5月	▲ 5,774	▲ 1,996	8.1	14.0	6.5	10.2	▲ 2.9	6.0	6.6	6.0	0.2	7.0
	6月	7,278	558	6.7	2.5	3.2	▲ 0.2	1.1	3.6	▲ 4.6	▲ 7.7	▲ 5.7	▲ 1.3
	7月	▲ 2,274	▲ 987	3.9	14.6	0.9	▲ 4.8	1.1	3.3	4.1	5.6	9.7	2.5
	8月	▲ 4,481	▲ 1,527	6.5	15.4	1.0	3.2	4.7	0.3	4.6	8.5	1.3	3.4
	9月	1,241	▲ 1,833	▲ 1.4	7.1	▲ 5.0	▲ 3.1	▲ 5.0	▲ 4.7	▲ 2.7	▲ 7.8	▲ 8.2	▲ 1.8
	10月	▲ 4,563	▲ 3,729	8.2	20.0	3.8	10.2	6.9	1.3	10.3	19.9	2.6	12.4
	11月	▲ 7,391	▲ 4,228	0.1	12.5	▲ 1.9	1.8	6.2	▲ 4.5	4.2	▲ 2.7	9.2	3.4
	12月	▲ 557	▲ 1,920	▲ 3.9	1.9	▲ 5.8	3.9	5.7	▲ 10.4	▲ 2.2	11.5	▲ 4.0	▲ 2.4
19年	1月	▲ 14,177	▲ 2,860	▲ 8.4	▲ 0.8	▲ 9.1	10.2	▲ 1.5	▲ 14.3	0.5	11.4	▲ 3.6	3.7
	2月	3,349	265	▲ 1.2	▲ 6.6	▲ 0.7	4.1	4.6	▲ 1.2	▲ 6.5	5.7	▲ 1.2	▲ 10.7
	3月	5,285	▲ 1,778	▲ 2.4	1.1	▲ 5.6	0.3	4.7	▲ 8.0	0.4	▲ 3.1	▲ 10.7	5.5

○貿易収支(季節調整値)は再び赤字に転化

3月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は+5,285億円の黒字(コンセンサス: +3,677億円、レンジ: +770~+6,990億円)とコンセンサスを上回る結果となった

輸出金額については、前年比▲2.4%(コンセンサス: ▲2.6%、レンジ: ▲7.4%~▲0.8%)とコンセンサスを上回る結果となった。輸出価格が上昇(前年比+3.4%)した一方、輸出数量が減少(同▲5.6%)したことで、輸出は4ヶ月連続で前年比マイナスとなった。輸入金額については同+1.1%(コンセンサス: +3.3%、レンジ: ▲0.7%~+9.6%)と増加となった。輸入については、価格(同+0.7%)、数量(同+0.4%)ともに増加したことで前年比プラスとなった。

季節調整値では、輸出金額(前月比▲1.0%)、輸入金額(同+2.1%)と、輸出が減少し、輸入が増加したことで、貿易収支は▲1,778億円と赤字転化となった。

○1-3月期の実質輸出は10-12月期比で▲2.2%と弱い動き

為替などの価格変動の影響を除いた実質輸出は、前月比▲1.0%(実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)と前月から減少した。春節の影響により実態よりも押し上げられていたとみられる2月からの反動で減少した格好だ。

実質輸出を国別に見ると、米国向け輸出が増加(前月比+0.8%)した一方で、EU及びアジア向け

輸出が全体を押し下げた（EU：同▲1.3%、アジア：同▲0.4%）。特にEU向けの輸送用機器は同▲5.9%と単月で大きく下げたが、前月の大幅な増加（2月：同+8.9%）の反動とみられ、特に問題はないだろう。

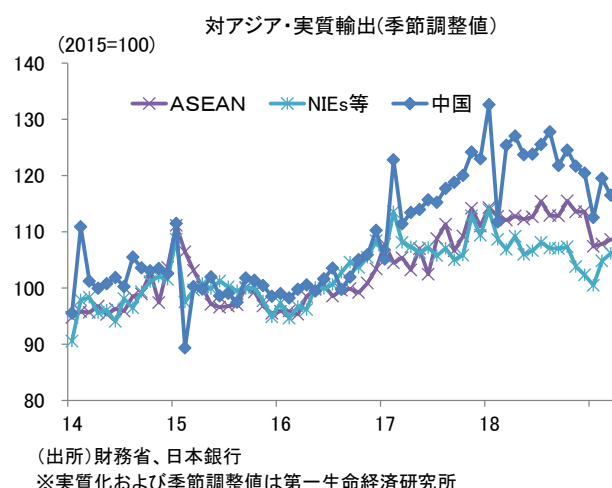
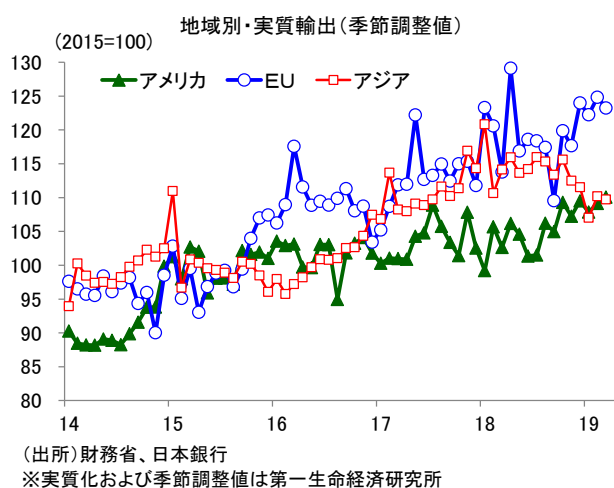
春節の影響によって振れがみられるが、1-3月期平均の10-12月期平均対比は中国向けの輸出で▲4.9%、対全世界で▲2.2%となっており、均してみても輸出は力強さを欠いた動きとなっている。

○緩慢ながらも回復を見込む

以上のように、3月の輸出は春節によって押し上げられていた2月から反動減となった。ただし、春節の影響を均してみても輸出の動きは弱く、海外経済の減速感が強まる中で、輸出の増勢は弱まっているものとみられる。

先行きについて海外経済をみると、米国経済は、一部の指標に弱さが見られるものの、雇用情勢が改善基調にあることや住宅需要が持ち直しの動きを見せていることから、個人消費がこの先も底堅さを維持することが見込まれ、引き続き堅調に推移するであろう。欧州経済については、英国のEU離脱問題を抱えていることに加え、企業マインドが落ち込み欧州経済の減速感が強まっているものの、一段の景気の減速は回避され、緩慢ながらも成長が続くと見ている。中国経済については足元で減速感が見られるが、小売売上高や固定資産投資など一部の指標に反発の兆しがみられており、政府による景気刺激策の効果が徐々に顕在化していくと予想する。

このように、世界経済は、先行きに対して不透明感を強めているが、米国を牽引役に緩慢ながら拡大基調を維持するとみられ、輸出もそれに歩調を合わせた形で推移すると見込む。なお、今月15日、16日と日米での貿易交渉が行われた。今後の交渉で自動車への追加関税等、日本に不利な条件が導入されるリスクには、対米輸出の動向をみる上で、引き続き注意が必要である。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。